

エイズ検査関連機材

実施地域

マハラシュトラ州



1. プロジェクト要請の背景

インドのエイズ患者は、1986年にマドラスで発見されて以来、年々増加の一途をたどっている。国立エイズ防止機構の1997年の発表によれば、320万人を対象とした血液検査の結果71,400人が陽性、血清検査では1,000人中22.10人の陽性反応が見られ、5,145人のエイズ患者が確認されている。エイズへの感染は異性間の性的接触によるものが74.1%と最も多いが、輸血による感染も7%あると報告されており、インド政府はエイズ対策の一環として、血液検査体制の整備を図っている。

なかでも、マハラシュトラ州は、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染者がインド全国の約55%、血清陽性率は1,000人中104.7人、エイズ患者も2,500人近くに達している。特に、輸血によるエイズ感染率は全国一で、その対策が緊急を要する状態であったため、我が国に対してエイズ検査関連機材の供与が要請された。

2. プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1996年度

(2) 援助形態

単独機材供与

(3) 相手側実施機関

マハラシュトラ州保健局

(4) 協力の内容

1) 上位目標

安全な輸血用血液を確保する。

輸血によるエイズ感染を防止する。

2) プロジェクト目標

血液検査体制を整備する。

3) 成果

- a) 血液検査機器を操作できるようになる。
- b) 血液検査機器を保守管理できるようになる。

4) 投入

日本側

血液検査機器 20台

インド側

機材の操作訓練・維持管理のための人員

ローカルコスト

3. 調査団構成

JICA インド事務所

(現地コンサルタント:Data Research and Transcription Services に委託)

4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年12月16日～1999年1月15日

5. 評価結果

(1) 効率性

本プロジェクトでは、マハラシュトラ州保健局管内の46輸血センターのうち、20センターに機材を供与した。血液検査機器の調達は適切かつ適時に実施され、納入業者が現場で操作法の訓練を行った。マハラシュトラ州保健局は、同局内外の医者や検査技師を対象として定期的に検査法の研修を実施しており、血液検査機器が供与された20の輸血センターすべてでこのような研修が実施された。

(2) 目標達成度

検査機器の設置と操作法の訓練を通じ、20センターでは献血された血液のHIV検査能力が向上し、血

液検査体制は整備された。

(3) 効果

血液検査体制が整備されたことにより、安全な血液の収集ができるようになり、マハラシュトラ州の輸血によるエイズ感染は終息に向かった。輸血によるB型肝炎感染も激減している。

(4) 計画の妥当性

本プロジェクトは、エイズ感染者が多く、かつ輸血が頻繁に行われている地域において、血液検査機器の供与により血液検査体制を確保したもので、きわめて効果的である。しかし、マハラシュトラ州に205ある血液銀行(輸血センターを含む)のうち、まだ96行に検査機器が設置されていない現状から、本プロジェクトを通じ供与された機材の重要性は大きく、計画の妥当性は高いといえる。

(5) 自立発展性

機材の維持管理状態は保健局が監理しているが、簡単な故障に対応できる体制が不十分であり、故障したままの機材も一部みられる。

保健局は州政府の予算で運営されており、世界保健機構(WHO)及び世界銀行の協力を受けながら、血液銀行業務とエイズ監視を行っている。また、同局は全州の州立病院を運営しており、病院の機器類を管理する技師に研修を実施し、財政的にも技術的にも自立できる態勢にある。しかし、スペアパーツ購入や故障修理への対応に不十分な面も残っている

6. 教訓・提言

(1) 教訓

機材を供与する際に、簡単な故障に対応するための訓練も実施することが望ましい。同時に、納入業者によるアフターケア体制も確保する必要がある。

(2) 提言

本プロジェクトは非常に効果的であったが、現地では血液検査機器の必要性は依然として高い。保健局の維持管理体制を確認しつつ、機器の追加供与も今後検討していくことが望ましい。